

梅雨

ディケアカリタス 増山恵美子

6月といえば日本は「梅雨」の季節ですね。ジメジメするし雨ばかりで何となく気分も沈みがちなっていう方も多いのではないのでしょうか？

「梅雨」とは春から夏へと気候が変わる6月から7月中旬にかけて中国の長江下流域・朝鮮南部から北海道を除く日本列島にみられる雨季のことをいいます。

たくさんの雨が降り続く梅雨。普段生活するにはうっとうしく感じてしまうこともあるかもしれません。

しかし、梅雨は木々や草花が命の盛りを迎える季節でもあります。紫陽花や菖蒲など、雨が似合う花々を眺められるのもこの時期ならではの楽しみです。蛸が川面や草むらを飛び交ったり、アサリやマテガイなど潮干狩りでみられる貝が旬を迎えるのもちょうどこの頃です。

また、稲作にとって雨は恵みそのもの、梅雨に入っても空梅雨で日照りが続けば水が不足し、稲は育ちません。米作りのためにも梅雨は極めて大切な歓迎すべき季節なのです。そして、雨と水田にはもっと深いつながりがあります。大量の雨を処理するうえで水田が重要な役割を果たしているのです。

「水資源かん養機能」

水田に貯められたかんがい用水や雨水が地下に浸透し、その一部が下流で湧き水となって河川に流れ出ること、河川の流れを一定にたもちます。

「洪水防止機能」

水田が雨水を貯め、時間をかけてゆっくり流れ出ることによって洪水を防いだり被害を小さくします。

「土砂崩れ防止機能」

水田がかんがい用水をゆっくりと浸透させ、地下水位の急激な上昇を抑えることで、地滑りなどの災害を防ぎます。

「土壌侵食防止機能」

水田に貯えられた水や、畑に植えられた作物の葉や茎が、雨や風の影響を和らげ土砂の流出を防ぎます。

以上のような働きから「水田はダムである」と言われます。水田と雨は、互いに欠かすことのできない存在なのです。

このように梅雨のおかげで美味しいお米が食べられるのですね！梅雨ならではの緑の美しさや、雨の音も楽しみましょう！・・・そんな気持ちで一年のうちのほんの数週間しかないこの季節を楽しんでみませんか？

